

Q CARD

病態把握能力向上ゲーム



ルール説明動画



プレー動画

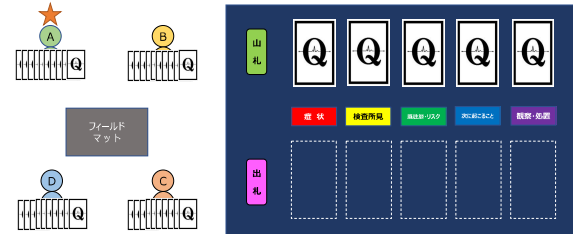
対象者：病院前救護に関わる全ての人

プレー人数：2人～8人用（個人戦、チーム戦ともに可能）

遊び方説明書（ベーシック編）

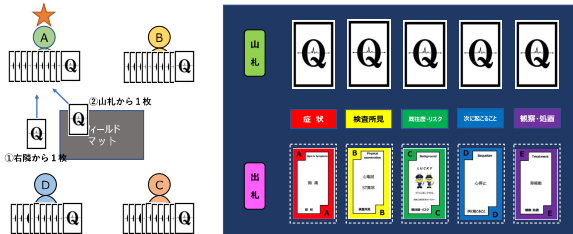
ゲーム準備

- ① 5種類のカードをよく切り、フィールドマット上の山札位置に置きます。
 - ② プレーする順番を決めます。
 - ③ 山札から、各種類のカードを2枚、合計10枚のカードを引きます。
- ※Aプレーヤーから開始し、時計回りにゲームが進行していきます。

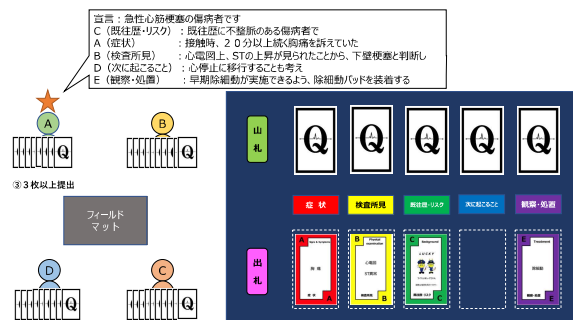


ゲーム進行

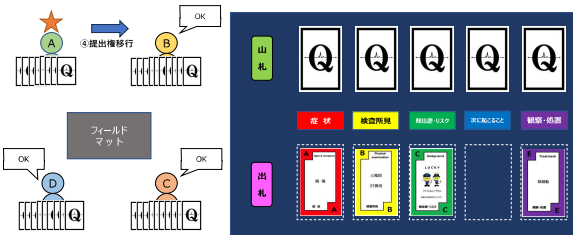
- ① Aは右隣のDから1枚、山札から好きなカードを1枚引きます。
- ※Aプレーヤーの手持ちカードは12枚になります。



- ③ 12枚の手札から、各種類1枚までとし、合計3枚以上（ラッキーカードを含む場合は4枚以上）関連のあるカードを組み合わせて出札位置にセットします。
 - ④ Aプレーヤーは出札に関連する疑った病名や疾患等を宣言します。
 - ⑤ 宣言した病名・病態と、提出したカードの関連性をプレーヤー全員に説明します。
- ※例では、既往歴・リスクはラッキーカード、次に起こることは未提出となっているため、これらは自ら内容を考えて口頭で説明しなければなりません。
- ※カードに書かれた内容を説明していきますが、より分かりやすい説明にするため、カードの内容以外に情報を追加しても問題ありません。



- ⑥ 宣言した病名・病態と出札及び口頭による関連性をプレーヤー全員で確認します。
- ⑦ 質問に対して、明確な回答ができなかった場合は、出札は全て提出したプレーヤーに差し戻されます。出札に対して異議がない場合は、出札を流し、提出権はBプレーヤーに移行します。



できないカードの出し方

- ① 提出カードが3枚未満。



- ② 同じ種類のカードを複数枚出す。



- ③ ラッキーカードを複数枚出す。



Qカードにおける留意点

- ① 他のプレーヤーから手札を引かれた、もしくは、手札を提出した結果、手札が1枚になった場合、「Q」を申告しなければなりません。なお、申告しない場合は、ペナルティとして各種類1枚ずつカードを引かなければなりません。
- ② 山札がなくなれば、流したカードを切り、山札として使用します。
- ③ Cの既往歴・リスクカードは、宣言した病名・病態やA、Bのカードに関連のあるものにする。
- ④ Dの次に起こることは、A、B、Cの内容を踏まえた上で起こる内容にする。
- ⑤ Dの次に起こることは飛躍した内容にしない。（例：低血糖によりCPAになる）
- ⑥ カード提出の審議については、宣言した病名・病態と関連のあるカードが提出できているかで判断してください。他のプレーヤーが知識の補完を目的に行う質問等に対して、明確な回答がない場合の全てが差し戻しになるわけではありません。
- ⑦ 知識を構造化させることが目的であるため、自分のカードばかり見るのではなく、他のプレーヤーの出札を確認し、積極的に質問を行い議論に参加してください。

その他

ビギナーズ編、ステップアップ、ベーシック編ともにプレーヤーのレベルに応じて、次のようなルールで行うことも可能です。

- ① 個人戦ではなくチーム戦で実施する
個人でプレーするのではなく、チームで相談しながらカードを提出することもできます。
 - ② スマートフォン等で調べる
知識が曖昧な場合はスマートフォン等で調べながらプレーすることも可能です。特に、チーム戦の場合は、複数のチームメイトで調べながら協力してプレーすることで学びが広がります。
- また、Cross Q Wordは一人でも楽しく学習できるツールです。



Cross Q Word